

MINI MINNIES

炭鉱記録画家

山本作兵衛氏 原画寄贈式典 が執り行われました



©Yamamoto Family



©Yamamoto Family



寄贈式典の様子

今回寄贈されることになった2枚の原画。左が坑道に入っていく親子、右が石炭を選別する女性たち

平成26年12月14日(日)、山本作兵衛氏が描画した炭鉱記録画が当館に寄贈されることになり、寄贈式典が執り行われました。

平成24年度に開催された鉱業博物館企画展「山本作兵衛氏炭鉱記録画展」では、秋田大学鉱山学部卒業生であり、鉱山学部・工学資源学部・国際資源学部同窓会である北光会の顧問を努められていた角銅立身氏から、ご自身所蔵の2枚の原画をお借りし、展示いたしました。その際展示された2枚の原画が、立身氏ご息女である角銅しおり様、民子様からの「縁のある鉱業博物館に寄贈したい」というお申し出により、今回の寄贈に相成りました。

炭鉱画の作者である山本作兵衛氏は、自らの炭鉱労働者としての働いていた様子を1,000枚を超える絵画に書き記した炭鉱記録画家です。山本氏が描いた記録画や日記などが、「アンネの日記」などが登録されている「ユネスコ世界記憶遺産」に2011年、日本で初めて登録されました。今回寄贈される絵画は、世界記憶遺産として登録されたものではありませんが、山本氏が残された大変貴重な炭鉱記録画原画のうちの2枚です。

寄贈式典は山本作兵衛氏の作品を多数所蔵している福岡県田川市石炭・歴史博物館内で執り行われました。秋田大学からは佐藤時幸国際資源学部長・鉱業博物館長らが出席し、寄贈者である角銅氏のご家族に深い感謝の意を表しました。

原画は、現在紙のほつれやしみまで忠実に再現された複製画の作成を進めております。完成時期は本年4月頃の予定ですが、作業が終了し準備が整い次第、皆様に公開する場を設ける予定です。今後も定期的にミニミニマイنزにて情報を発信していきますので、ご期待ください。

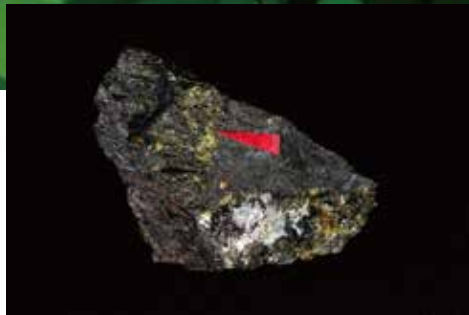
原画は、現在紙のほつれやしみまで忠実に再現された複製画の作成を進めております。完成時期は本年4月頃の予定ですが、作業が終了し準備が整い次第、皆様に公開する場を設ける予定です。今後も定期的にミニミニマイنزにて情報を発信していきますので、ご期待ください。

当館の鉱石・鉱物標本の整理と展示に協力いただいている豊遙秋氏の名を冠した「豊石」が新鉱物として認定されました。

ふんのみちあき



豊遙秋氏



「豊石」と命名された新鉱物

ふんのみちあき

豊石 (Bunnoite) $Mn^{2+}_6AlSi_6O_{18}(OH)_3$

高知県いの町で産出した日本産新鉱物。2014年9月8日に国際鉱物学連合から新鉱物として認定されました。鉄マンガン鉱床の鉱石中に葉片状結晶の集合体で産出され、褐色や黄緑色、暗緑色を発色します。結晶系は三斜晶系です。

日本鉱物学会2000年度年会においてアカトシ石として報告されていましたが、浜根大輔氏らが精査したところ、新鉱物であると発見されました。

豊石は現在新着標本として1階ホールにて展示しております。

ふんのみちあき

豊遙秋氏について

豊遙秋氏は、秋田大学鉱山学部を1968年に卒業されました。鉱物学が専門で、鉱物の分類においては日本を代表する研究者として知られています。産業技術総合研究所館長を勤められ、これまで多くの鉱物の発見に貢献してきました。その豊富な知識・経験を活かし、日本のみならず世界の博物館や大学の鉱物標本整理に尽力されてきました。当館でもその力をお借りし、数千点に及ぶ標本の整理に協力いただいています。

新鉱物の名称は、提案者の名を付けることができません。秋田大学に縁のある鉱物名としては、第二学長である渡辺萬次郎氏の名を冠した「萬次郎鉱」、第四学長渡辺武男氏の名を冠した「渡辺鉱」も、両学長の功績を称え、有志が提案した新鉱物に命名された歴史があります。この度2014年に発見された新鉱物に豊氏の名が冠されたのは、豊氏の多大なる学問への貢献を称えてのことでした。こうした経緯からも、いかに豊氏が鉱物学において貢献してきたか伺い知ることができます。

エリアなかいちにぎわい交流館AU 出張展示の内容をリニューアルしました！

鉱業博物館では、収蔵標本の一部をエリアなかいち「にぎわい交流館AU」に出張展示しています。昨年12月末に標本の入れ替えを半年ぶりに行いました。展示したのは「フッ素魚眼石(写真奥)」、「水酸魚岩石(写真左手前)」、「ダトー石(写真右手前)」の3つの鉱物です。いずれも、火山岩の中の空洞に二次的に生成した鉱物です。

魚眼石は石の輝きが魚の目の輝きに似ていることから命名されました。今回フッ素魚岩石と水酸魚眼石の2種類の魚眼石を展示しています。どちらも大変美しい標本ですが、その違いを肉眼で区別を付けることはできません。

ダトー石は産出することが少ない珍しい鉱物で、独立した粒状で産出することからギリシャ語の Dateomai (分割する)に由来して命名されました。結晶の集合体がぶどう状になっているものはポトリオ石と呼ばれることもあります。

3つとも大きな母岩付き標本です。美しさの中にも迫力を湛えた珍しい鉱物を、ぜひにぎわい交流館に見にいらしてください。



水酸魚眼石拡大写真
結晶がとても大きいです



喫茶店「ふらっと」の前のスペースに
展示しています

鉱業博物館 サイエンス ボランティアを 募集しています！



鉱業博物館では、平成27年度サイエンスボランティアを募集しています。

サイエンスボランティアは博物館の様々な活動に参加し、その運営をサポートします。豊富な知識を生かした展示案内や、団体見学時の誘導、子ども向けイベントの補助のほか、工作や情報分野の作業などがあります。

博物館が好きで何かに関わってみたい、人と接する活動がしたい、木工や電工などの手先の器用さなど特技を活かしたい、社会貢献活動がしたいなど高校生以上の方であれば性別・職業を問わずどなたでも参加できます。

ボランティア活動のサポート体制も充実しています。鉱業博物館に関わりのある秋田大学教員・研究員が博物館や標本のことをわかりやすく解説する講習会や、関連施設や野外に出かけての研修会などを開催しています。得意な分野で、できる範囲で、活動していませんか？お気軽にお問い合わせください。

**問い合わせ
申込先** 鉱業博物館事務室までご連絡ください
(TEL:018-889-2461)

活動内容

見学者への案内と説明、見学サポート、館内整備等のサポートなど

活動期間

1年間
(平成28年3月31日まで)

募集対象

高校生以上の方であればどなたでもご参加いただけます

募集期間

平成27年
2月 2日(月)
～3月31日(火)

市民向け開放講座のお知らせ

御嶽山2014年9月水蒸気噴火から 世界の金属資源を考える

平成27年2月12日(木) 15:00より

講師：大場 司 副館長(国際資源学部教授)

会場：鉱業博物館 3階 講堂



顕微鏡写真

2014年9月、御嶽山が噴火し、死者57名、行方不明者6名という戦後最大の火山災害を引き起こしました。御嶽山水蒸気噴火のメカニズムと大規模銅鉱床成因の共通点について紹介し、火山と金属資源の関係について講演します。

2月の恐竜

スピノサウルス

ミュージアムショップで販売中



2月の恐竜はスピノサウルスです。スピノサウルスが陸上と水中生活の両方に適応していた可能性を示す論文が、2014年、科学誌サイエンスに掲載されました。体長15メートル、体重20トンという大柄なスピノサウルスですが、パドル状の足や長い尾、幅の狭い腰部、長い鼻先の上部の鼻孔、高い骨密度を持ち、水中で生活する条件が非常に整った体の構造となっていた可能性が高いそうです。しかし、当時のスピノサウルスの生息域にある水辺は小さく、浅い川であったという説があり、水中生活説には異論もあります。